

環日本海連続講座

一衣帯水の日本と韓国は、音楽においても古くから深いつながりがありました。この講座では、近現代の日韓音楽の100年をたどりたいと思います。この100年、日本と韓国の間には不幸な時期もありましたが、今は官民あげて友好交流の輪が広がっています。音楽はその間、時に異文化理解や交流を促す潤滑油となる一方で、時に政治的に利用されるなど、光と影の部分を併せもっていました。講座では、特に鳥取県を糸口に、その複雑な音楽の歴史の考察を試みます。鳥取県は、岡野貞一、田村虎蔵をはじめとし、数多くの著名な音楽家や音楽関係者を輩出してきました。鳥取県にゆかりのある人物と韓国・朝鮮との知られざる接点から、日韓の近現代における音楽の有り様をみていきます。

スケジュール

第1回 1月23日|土| 唱歌と童謡をめぐる日韓の近現代

第2回 2月20日|土| 幻の音楽学校
—植民地朝鮮における音楽の政治学—

第3回 3月20日|土| 高木東六と韓国・朝鮮
—歌劇「春香」—

講師紹介

ふじ い こう き
藤 井 浩 基 氏

鳥根大学教育学部を経て、京都市立芸術大学大学院音楽研究科（音楽学専攻）修了。

2003年韓国国立韓国芸術総合学校音楽院客員研究員。現在、鳥根大学教育学部准教授、鳥取短期大学非常勤講師。博士（芸術文化学）。米子市出身、在住。

研究活動：日韓音楽関係史をテーマに研究を重ね、最近の論考に「日韓音楽関係史にみるポストコロニアリズム—日本での鄭京和—」（東京大学東洋学研究情報センターWebsite「論集—アジア学の最前線」2007年）などがある。また、研究成果の一端は、高木東六作曲の歌劇「春香」の復活上演等にも結実し、社会に幅広く還元されている。著書「鳥根の民謡—歌われる古き日本の暮らしと文化—」（共著、三弥井書店、2009年）。

鳥取からさぐる
日韓音楽の100年

